

海外安全対策情報（平成28年10月～12月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件や、昨年10月にはショッピングモールでの通り魔事件も発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等においては十分に注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2016年1月～9月（2017年1月23日時点での最新情報）のベラルーシにおける犯罪総数は71,052件で、昨年同時期と比較し2.3%減少しています。未成年者による麻薬犯罪が増加しているとの報道もありますので注意してください。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗	28,223 件（前年比 6.9%減）
（うち住宅対象侵入窃盗）	7,657 件（同 6.1%減）
イ 公然窃盗	1479 件（同 10.6%減）
（ひったくり、置き引き等）	
ウ 恐喝	85 件（同 27.4%減）
エ 詐欺	3,623 件（同 27.1%増）
オ フーリガン犯罪	2,974 件（同 5.3%増）
カ 殺人及び殺人未遂	319 件（同増減なし）
キ 重傷傷害	591 件（同 9.5%減）
ク 強盗	173 件（同 22.4%減）
ケ 強姦及び強姦未遂	104 件（同 3.7%減）

(2) 邦人被害事案は報告されていません。

(3) 2016年10月～12月における主な被害事案は以下のとおりです（当地の報道から作成）。

ア 9月28日、ベラルーシ及びロシアにて発生した連続強姦・窃盗事件の犯人であるロシア人の男が送検された。ベラルーシ国内での事件は1994年から2014年にかけて発生し、被害者の数は判明した限りで35名、多くは鉄道の線路や車道沿いでの犯行であった。警察は更なる情報提供を求めている。

イ 10月8日、ミンスク市のショッピングモール「ノーヴァヤ・エウローパ」にて、17歳の若者が斧とチェーンソーで無差別に切りかかり、ショッピングモールの従業員及び買

物客の3名が死傷する事件が発生した。犯人は現場で取り押さえられた。調べによると、犯人は犯行の3・4時間前にウォッカを150ml飲んでいて、なお、犯人は動機について、「人を斬ってみたかった」と供述した。

ウ 11月10日、ミンスク市ピェルヴォマイスキー地区のスーパーマーケットにて強盗未遂事件が発生した。同日午前1時頃、店内にいた男性が銃のようなもので、店の金品を脅し取ろうとしたが、何らかの理由で犯行を中断し逃亡した。犯人は現在捜索中である。

エ 11月23日、ミンスク市にて中国人学生を狙った窃盗事件が発生した。被害者が自宅の共有玄関前にて携帯電話で通話をしていたところ、男が接近し、被害者の手元から携帯電話を奪い、逃走した。被害者が大声で助けを求めたところ、パトロール中の警察官が駆けつけ、7分後に犯人が拘束された。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の一部の情報です。定期的に報道を確認する等し、自身の安全確保に努めてください。